

はじめに

近年、学校において、児童生徒が巻き込まれる事故や自殺など、子どもたちの心身の健康への影響が心配される事件事故が全国的に発生しています。これは、岩手県においても同様の状況だと考えられます。学校全体を巻き込むような突発的で危機的な事件事故が起きると、子どもたちはもちろんのこと保護者や学校職員も大きな衝撃を受けることになります。自殺の発生であれば、自殺した人との関わりの程度によって、周囲への影響は大きくなり、場合によっては、さらなる自殺を招く群発自殺の可能性もあります。また、インターネット社会においては、様々な情報が混乱して広がり、過剰なマスコミ報道によって、学校は混乱した状態になることもあります。

事件事故後、学校の危機的な状況において、こころのケアを適切に実施することは、児童生徒の心身への影響を最小限にとどめ、健康を回復するために、必要不可欠な対策の一つです。

初期対応では、事件事故発生直後の学校現場は混乱していますので、まずは安全で安心できる状態を取り戻していくことが、最初の活動になります。スクールカウンセラーによる緊急支援は、児童生徒のケアと同時に学校をケアし、学校が本来の機能を回復し、二次被害の拡大を防止していきます。しかし、スクールカウンセラーの初期対応は、期間、回数が限られています。このため、危機状況が学校全体に及び、学校本来の機能回復が短期的に難しい場合は対応しきれません。初期対応終了後、個人の症状が重症化するなど長期的なケアが必要になる場合もあります。個人の回復については、さらに家族や周囲の事情も影響し、通常に戻るには、数ヶ月から数年かかる場合もあります。したがって、初期対応では、個別の対応のみならず、中長期的かつ地域と連携した対応体制をつくる必要があります。

「岩手県の学校における事件事故後のこころのケア～中長期ケアにつなげるために～」は、県内の学校で事件事故が発生した場合に、学校の対応やスクールカウンセラーの初期対応のみならず、中長期ケアの確保や地域の関係機関と連携した支援が行える体制を整えることを目的として、学校現場で教職員やカウンセラー、外部からの支援者等が活用できる手引きとして整理しています。中長期ケアのための活動の流れや、関係機関で地域連携ケア会議を開く際のポイント、実際に現場で使用する様式、啓発教育用資料、関係機関・団体連絡先等を掲載しました。実際の現場は、二つとして同じものはありません。各状況に応じて必要な修正を加えながらこの手引きをご活用ください。

なお、この手引きを作成するにあたって参考とさせていただいた文献や関係機関の情報については、巻末に掲載しておりますのでご参照下さい。